

【第3回 佐賀県災害警戒本部会議】 7月10日

危機管理防災課長／唐津市平原地区の土砂崩れ現場から発見された1名は女性で、その後、唐津署に搬送された。残り2名の救助活動を継続中。

唐津市七山池原地区は、複数の道路が倒木で通れず、49世帯、109名が孤立。地区の責任者と連絡が取れ、急病人はいないとのこと。17時30分、地区の責任者から唐津市に、車が通れるルートが開いたと連絡が入り、孤立状態ではなくなった。

- ・ 停電箇所が110か所から160か所に増えた。
- ・ 対策本部が7市町、警戒本部が5市町、連絡室が8市町。
- ・ 避難指示が12市町、高齢者等避難が7市町。
- ・ 避難所は17市町134か所。避難者が112世帯、151名。
- ・ 休校、休園は資料のとおり。
- ・ 土砂災害警戒情報は、順次解除。
- ・ 県内交通状況は、資料のとおり。運転見合せは、数か所で解除。
- ・ 救助法の適用リエゾンの派遣は、資料のとおり。

県土整備部／現在、越水箇所はない。氾濫危険水位に達した河川は、寒水川のみ。河川水位は、徐々に下がっている。

県所有の排水ポンプ5台のうち、佐賀土木の「ひので」、唐津土木の「はやぶさ」、東部土木の「あけぼの」が稼働。

- ・ 「はやぶさ」は15時35分、松浦川への排水を終了、撤収作業中。
- ・ 「あけぼの」は、冠水した県道久留米基山筑紫野線の排水を轟川排水機場にて開始。
- ・ 河川施設の被害は、17か所に増えた。
- ・ 土石流やがけ崩れは、変化なし。
- ・ 道路の土砂崩れは15か所に増えた。
- ・ 通行止めは、14路線、18か所。うち、崩土、土砂崩れは15か所、冠水3か所。

県警へり及び防災へりから、JR唐津線の南側斜面に崩落箇所があると、県からJR九州の佐賀鉄道事業部に報告した。もともと部分的な崩土があり、撤去作業中だった。その20～30m上方に崩土があると情報提供したところ、佐賀鉄道事業部で現地確認の上、対策方法や本日中の供用ができるのかを判断するとのこと。

農林水産部／山間部を中心に、農地や林地の法面崩壊等の報告があったが、公共施設、人家等に影響はない。

警察本部／平原の土砂崩れの捜索活動中。今後の捜索方法を消防等と調整中。

佐賀広域消防局／浜玉町で行方不明の2人は、土砂崩れ前に自宅の車庫から川を見ていた、と家族の目撃情報があった。現在、消防隊は車庫の中を掘り起こしている。

自衛隊／自衛隊の行動方針に変更はない。午前中に出発した自衛隊の連絡員は、現地に到着。唐津市とは連携が取れている。

佐賀地方气象台／土砂災害警戒情報は、お昼過ぎが16市町、現在は佐賀市と唐津市のみ。大雨警報や土砂災害は、土壌が緩んでいるため、明日の朝まで警報が続く。河川の水位が上がっているため、警報は継続。河川には近づかないように願う。

梅雨前線の位置は変わっていない。夜の初めごろまでは、多いところで1時間に30mmの予報。明日にかけても小康状態は続き、未明から朝にかけて、多いところで1時間10mm。今のところ、激しい雨はないと見込んでいる。

防災監／浜玉の現場は、消防と警察を中心に救助活動中。七山の崩落箇所は、現在、通行できるようになった。

天気が回復したので、県警ヘリや防災ヘリで上空偵察を行った。崩落や道路が土砂で通行できない被害もあった。引き続き、状況の確認と救助を確実に対応する。

雨の峠は越えたようだ。しかし、土砂災害のリスクは残っている。引き続き警戒し、危険地域の人には、ぜひ避難してほしい。2階への避難も効果がある。

唐津市、関係機関と連携しながら対応したい。